

## キャリアプロポーザル・シート

### 001. キャリアプロポーザル・シートの目的

キャリアプロポーザル・シートは、インターロジックで働く一人ひとりの社員のライフプランと、企業ビジョンとのベクトル合わせを行うツールです。

インターロジックはチームプレーや教育を重視する会社です。それが、「情報フロー」の質を高め、事業創造の原動力となります。

一方で、企業の結束が強まれば強まるほど、本来一人ひとりが自己責任のもとに研鑽すべき「主体性」と、組織として力を合わせるという「チームワーク」を混同して理解してしまう可能性が高まります。

**インターロジックという傘をひっぺがす。そこに、納得いく自分がいるかが勝負**

主体性とチームワークの混同が生むリスクは、①個人の組織依存と能力低下、結果としての②企業競争力の弱体化、です。

インターロジックに力を結集して事を成す。

その大前提として、一人ひとりが自分自身のライフプランを描き、組織の枠ではなく、一人の人間としてしっかりと判断していく必要があります。人生の目標を実現する手段として、インターロジックという器を活かすべきであって、インターロジックが掲げる目標を自分の人生の目標にしてしまう、ということでは全く頼りないわけです。

自分の判断軸をもつ、ということがあつてはじめて、インターロジックはもっとどうあるべきなのか、チームはどうあるべきなのか、ということの答えや意味が育まれます。そこで手段として生まれる「協力」こそが、真のチームスピリッツです。

**自分のキャリアアップに責任をもてるのは、自分だけ。**

自分は何をしたいのか、インターロジックに期待していることは何か、を明確に伝えなければ誰も汲み取ってくれません。自分の思いを伝え、望む結果を手繕り寄せる。それは自身のキャリア開発においても非常に重要なことです。

ここで仕事をする！と手をあげなければ、今、企業に存在すらしていないはずの自分。企業を選ぶときには積極的に考え方行動して自分のステージを手に入れたのに、ステージの入り口にたった途端に、そこから続く自分のキャリアアップについては企業任せになる。そんな転職希望者も多く存在します。

働き、学ぶ機会の提供するコンサルティング会社で、周囲を応援するプロとして、私たち自身は、少なくとも自分のキャリアを常に主体的に、自律的に高めていくスタンスが不可欠です。

**希望を手繕り寄せるためのプロポーザル。**

こうした主体性をもった個人の集団であることを前提とすると、常に、個人の目標と企業の目標を定期的にすり合わせることで大きな力となります。

自分という個人と、企業の活動をどのように折り合いをつけて発展させていくか。今私たちが思いや時間、空間を共有していることの意味をしっかりとみつめる作業がキャリアプロポーザル・シートです。

これは企業があなたに与える課題ではありません。

何でここにいるの？という本質的な質問に対して、「自分がインターロジックの活動にこうやって参加することが、自分自身にとって企業にとってもプラスとなるはずです。どうでしょう！」という思いのこもった提案（プロポーザル）です。

自分にとって、企業にとって魅力的な提案を発信する。

その様々な思いの実現に向けて、全員で真のチームスピリットを發揮して「折り合い」をつけていきましょう。

## 002.記載要領

---

名前	:自分の名前
役職	:自分の役職
年齢	:「2010/Stage1」確定時の年齢（記載方法「27歳」）
10/Stage1 計画	:確定日付（記載方法「10.1.18」）
10/Stage1 実績	:同上
10/Stage2 計画	:同上
10/Stage2 実績	:同上
10/年間 計画	:同上
10/年間 実績	:同上
昨年総括	:1年を振り返っての自分に対する約束の達成度、自己成長、気づき、反省材料などを、フリーフォーマットで記載。2009年中途入社の場合は、入社後について。
セルフビジョン	:以下、3点の主体的キャリア開発の因子を総合した、 <u>自分自身の人生の方針</u> を記載。 自分は世の中や自身のキャリアプランをどのように捉えていて、どうしていこうと考えているか。会社に対して活動計画を提案・コミットする上で、 <u>そもそも自分はこのような基軸をもって生きている、という前提条件</u> の表明です。 ① 自分の価値観やポリシー ② 社会変化やビジネス動向についての見解、問題意識 ③ 将来に向けてのキャリアプラン・ライフプラン
活動計画	:基本的にフリーフォーマットですが、以下の要素が網羅されるよう心がけること。  1. テーマ 期間を通じて、要するに何をするのか。単に断片的な業務の羅列ではなく、一定期限における自分のコミットメント全体を貫く、総括テーマを掲げること。  2. 目標の数値化・定量化 読み手によって解釈の異なる目標は、ゴールとして機能しません。その目標が達成された状態とはどのような状態や、数値状況を指すのか。曖昧さを極力排除して、誰にとってもわかりやすい、誤解の生じない表記を心がける。  3. 思い 自分ができること、すべきこと、したいこと。これらを統合して「実行可能な思い」を育て上げることが、現実のキャリアを前に進める原動力となります。自分が情熱をもって、ワクワクと楽しく、一流の仕事に取り組める心のこもった活動を定義し、提案してください。
実績	:基本的にフリーフォーマットですが、以下の要素が網羅されるよう心がけること。

### 1. ノンイベントの棚卸し

自分の提案を、実際に果たすことができたか。計画通りにならなかった場合には、その達成度合いを厳密、具体的に記載した上で、その要因を掘り下げて、そこから得た有益な学びを記載します。

### 2. イベントの棚卸し

予期しないイベントが発生した場合には、そのイベントに対して自分がとった行動の有効性を検証します。

### 3. イベント・ノンイベントの取り込み

予定通りいかなかったこと(ノンイベント)、予期しなかったこと(イベント)の発生が、どのように自分自身のキャリアを肉付けすることにつながったか。しっかりと経験を消化して将来につなげることが実績振り返りの最大の意義です。

年間テーマ	:セルフビジョンに基づいて、自分のキャリア開発を設計するのが、年間テーマです。 上期・下期はより具体的な業務実態に応じた目標が主体となります。一方で、自らが主体的に、より豊かな人生を手に入れるための、キャリア開発行動が不可欠です。 このように、業務よりも広範囲な視点から、自分自身の1年間のテーマを設定します。
-------	---

### <概念図：それぞれの記載項目の位置づけ>

セルフビジョンが核となって、年間を通じて自分が取り組むべきテーマや、企業における活動内容が導き出されます。また、セルフビジョンやこれらの活動にしっかりと思いを込める上で、自らが会社に価値を持ち込む、という主体性・自律性あるスタンスが基礎となります。

